

層雲峡ビジターセンター



【コウモリ岩周辺のハウチワカエデ紅葉 / 10月】

層雲峡峡谷の紅黄葉

今年は長雨や日照時間の短さ、そして大きな台風など、きれいな紅葉になるにはあまり良い条件とはいえない中、それでも順調な色づきとなりました。中でもナナカマド、ハウチワカエデ類の濃い赤色はずいぶんと目立ち、紅葉期と連休が重なった事もあり、たくさんの観光客が層雲峡を訪れました。その後は天候も安定したので層雲峡峡谷の紅黄葉も、ずいぶん長くまで楽しむことができました。あとは麓に降る初雪を待つのみです。



【雪虫(ドノネオオワタムシ)】

山の奥



千ピタ-ニュース
No. 38
2009.10.26(月) 38
発行/千ピタ-編集室
🌸 開館時間
6月~10月 8:00-17:30
11月~5月 9:00-17:00

層雲峡から山便り

9月24日
雪虫舞つ頃



仕事を終え、センターを出ると雪虫が飛んでいました。おしりに白い綿のような分泌物を付け、飛んでいるというよりも、ゆるゆると上下に移動しながら浮遊しているという感じです。秋は何かとしみじみするような事象が多く、紅葉見てはしみじみ、山に初雪降ってしみじみ、そして雪虫を見てはまたしみじみ。でも雪虫にしみじみしてしまうのは、冬の

長い北国ならではかもしれません。雪虫が舞うようになると、「いよいよ雪も近いのかしらねえ」とご近所さんと井戸端会議が始まります。

「雪虫」はアブラムシの一種で、正式名称としては「トドノネオオワタムシ」など複数種があります。ヤチダモとトドマツを季節的に行き来しながら世代交代をし、晩秋によく見かけるのは産卵のためにトドマツからヤチダモを目指し結婚飛行する成虫たちの姿です。そして、「雪虫が飛ぶと初雪が近い」ともいわれます。
さて冬の使者殿、今年の初雪はいつごろになるのでしょうか？

今月の千ピタおは

「黒岳5号」です



「行くぞぞ！ 出たぞ！」

10月10日

それぞれの足跡



黒岳山頂 (10/10)



ストープに火を入れ、車の窓にびつちりと張り付いた霜を取ることから始まる一日。台風が過ぎ、層雲峡の最低気温は今季初のマイナス2℃を記録しました。日陰の水溜りには氷が張り、数回目の降雪を迎えた大雪山の頂はいよいよ真っ白です。紅葉に彩られていた頃とは180度違う厳しいその御姿が遠く感じます。

積雪は5合目で15~20センチ。7~9合目で50~60センチ、9合目山頂下で60~80センチ、山頂周辺15センチ、石室までは吹き溜まりが多く50~70センチ。
7合目リフトで石室の片付けを終え、ちようど下山してくる管理人とすれ違いました。彼の踏み跡がなければ登るのにもっと難儀したことでしょう。下山した彼の代わりに、山頂から石室に向かつてキツネの足跡がでてんと続いています。それは厳しい季節を生き延びようとする野生の力強い足跡でした。



樹氷をまとうミヤマハンノキ (黒岳 10/10)

10月15日
ラッティングコール

「フイーヨー...フイーヨー...」と、日も暮れた谷間を越えて今年もまたこの声が聞こえてきます。これは秋になり発情期に入ったエゾシカのオスが発する声で、なわばり主張や自己アピール等の意味を持ちます。そしてこれがまた何とも言えず物悲しげで、秋の深まりというより冬の始まりを連想させるような声なのです。

他のオスとのなわばり争いに勝つたのでしょうか？それとも幾度かの争いに興奮しているのでしょうか？勇ましくも哀愁漂う鳴き声が一日の終わりと共に夜に吸いこまれていくようでした。



お尻を膨らませ警戒するエゾシカのメス

木のたね

～木の実の話～

層雲峡周辺の森では、オニグルミ、ミヤママタタビ、ヤマブドウなど、たくさんの種類の樹の実が実り、この実を目当てにネズミからヒグマまで多くの動物たちが集まってきました。

動物たちが食べる木の实には大きく分けて2種類のタイプがあります。果物のように果肉を主体とするタイプ（リンゴ・ミカン）と、外果皮が堅く種子に多量の脂肪分を含むタイプ（ドングリ・クルミ）です。自然の木や草の実は栽培物とは違い、毎年たくさんの実がなるわけではありません。多くの場合、実りには年によって豊作不作年があり、このように豊作不作が年によって交互に繰り返されることを隔年結実といいます。豊作年は動物たちの食べ残しが多くなり、その食べ残しの実は発芽し、子孫を残せる確率が高くなります。逆に不作年は、もともと少ない実が動物たちに食べ尽くされ、発芽の可能性はさらに低くなります。

実をつける植物にとって子孫を残すという点では、鳥や動物たちとの関係も重要です。自然界では植物も動物もお互いに長い年月をかけ、巧みな戦略を築きながら子孫を増やしてきました。自然界という厳しいサイクルの中で切磋琢磨しながら互いに命を育んできたのです。



ナナカマド



マタタビ



コクワ



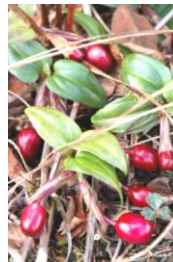
ミズナラ



ノウゴウイチゴ



ヤマブドウ



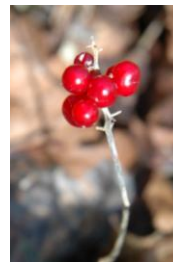
ツルリンドウ



シウリザクラ



ミヤマエンレイソウ



マイヅルソウ



オニグルミ

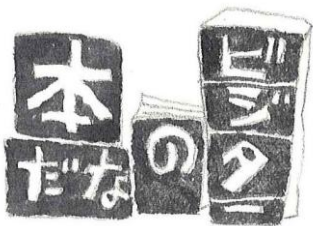


コウライテンナンショウ

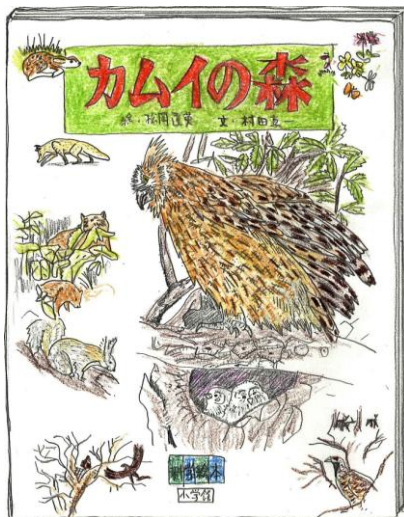
カムイの森

絵・松岡達英 文・村田真一

小学館



「ピジターの本棚」では身近な自然にふれる本を紹介しています。本は館内で閲覧できます。



これはかつて、人と自然がうまく共存し、動物たちをカムイ＝神の名前で呼んでいた大地、知床で今も繰り返り広げられている生命の循環の物語です。

カムイの森は海と大地が接する豊かな場所です。自然の象徴としてアイヌの人々は「シリ・エトク(知床)、地の果てと呼んできました。ヒグマを含め多くの生き物が豊かな自然によって生かされ、人々はすべての生き物に神が宿るとして畏敬の念を持って暮らしてきました。

森が川を育み、その豊かな川は海に注ぎ込む。海と大地はつながっています。今も途切れることなく・・・。



★★観察会は事前申し込みが必要です★★

★★詳細についてはお問合せください★★

冬期講座 スケジュール

■ スノーシュートレッキング

【日時】1月、2月隔週土日

【内容】スノーシューで行く冬の森の観察会。

紅葉谷や大函周辺など山麓周辺の自然を歩きます。初心者の方も気軽に参加できます。

■ 大雪山麓を歩く ① ~大函

② ~七賢峰の滝

③ ~黒岳九十九沢源流部

【日時】①2月14日 ②3月7日 ③3月28日

【内容】間近で観察する柱状節理、全面結氷した滝、冬の黒岳中腹。積雪期ならではの景勝地を訪れます。

クマタカの森がここにあり、カラスがしきりに鳴いている。目を向けると、クマタカがトドマツの枝にとまり、ピーピーと愛らしい声で鳴いている。カラスは天辺でわめくように威嚇を続ける。耐えかねたクマタカはぶわっと飛び立ち離れた樺に降り立った。すると、もう一羽がそこで羽を休めているではないか。繁殖期にはまだ早い。親子だろうか。いや、どちらでもない。クマタカの森がここにあり、



【日時】12/12~23 13:30~15:30

参加自由・無料/申し込みは不要です



【日時】12/20~24 13:30~15:30

【定員】6名(要申し込み)・無料

【内容】いろいろな型を使ってクリスマスのろうそくをつくります

しきものカレンダー

- 9/1 アオダイショウ・シマリス(上)、9/4 第四雪渓紅葉見頃(赤)、9/5 山頂紅葉見頃(黒・赤)、9/7 ナキウサギ(黒)、9/8 チゴハヤブサ(上)、9/9 第1花園紅葉見頃(赤)・大雪山初雪、9/12 大雪山初冠雪・北鎮岳積雪 30cm、9/17 七合目紅葉見頃(黒)、9/20 エゾリス(上)、高原温泉沼コース紅葉見頃、9/21 上川町最低気温-1.3℃、9/22 ヤマコウモリ(上)、9/23 雪虫(上)、10/2 エゾシカ親子(上)、10/3 シマエナガ(上)、10/4 紅黄葉見頃(層)10/9 ヒグマ(層)、10/10 初氷(層)、10/12 ホシガラス(層)、10/15 雄ジカのラッティングコール(層)、10/19 ルリビタキ(層)、10/24 クマタカつがい(上)

* ()内は観察地 / 上川・黒岳・層雲峡・赤岳・白雲岳

発行:大雪山国立公園

TEL 01658-9-4400 / fax 01658-9-4401

HP アドレス <http://sounkyovc.town.kamikawa.hokkaido.jp/>

開館時間 6月~10月/8:00~17:30無休・入館無料

11月~ 5月/9:00~17:00月休(祝祭日翌日)